

2026年度
編入学試験問題

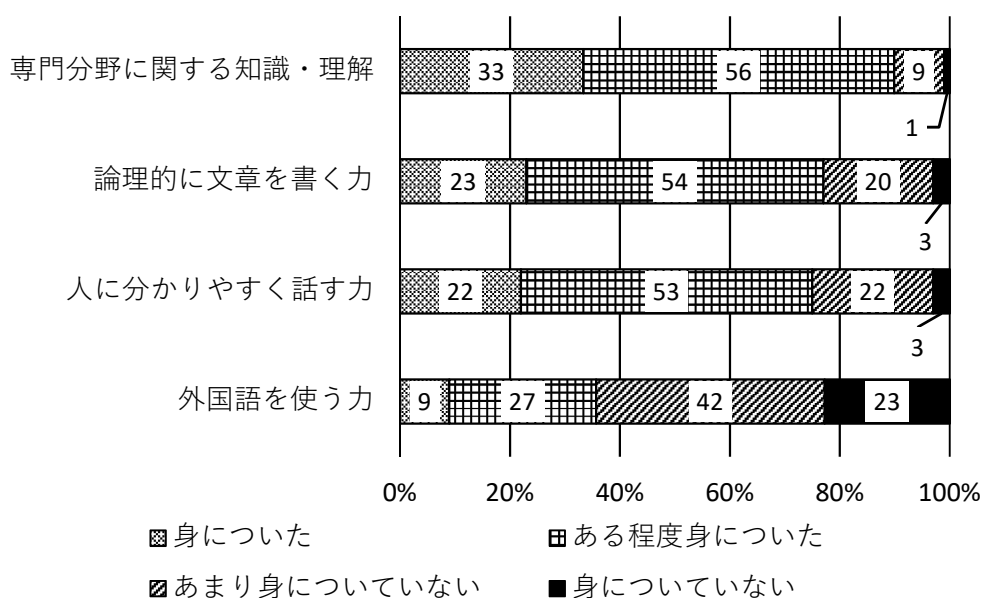
小 論 文

奈 良 大 学

社会学部 心理学科

【問題】 次のデータは、全国の国公立大学・短期大学の大学生を対象とした令和6年度（2024年度）「全国学生調査（第4回試行実施）」の一部です（集計基準に合致した大学生のみの有効回答数10万7千436人のデータ）。

下の図は、「大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身についたと思いますか。」という質問に対する回答の一部を抜き出して作成した図です。



このことについて、以下の設問に答えなさい。

設問1：図から読みとれる結果を端的にまとめて回答しなさい。

設問2：図から読みとった結果に基づいて、あなたの考えを端的にまとめて回答しなさい。

設問3：大学教育の改善には何が必要か、あなたの考えを端的にまとめて回答しなさい。

出典：令和6年度（2024年度）「全国学生調査（第4回試行実施）」（文部科学省令和7年9月3

0日発表）より作図

2026 年度入試 編入学試験（出題意図、評価方法、解答例）（心理学科）

【出題意図】

心理学では、データを客観的に読みとる力が求められる。また読みとった内容に基づいて、論理的に自分の考えをまとめる力が求められる。出題の意図は、それらを行う素養があるか評価するための設問である。具体的には、下記の通りである。

設問 1 データを読みとり、主要な特徴を簡潔にまとめる力があるかどうか。

設問 2 読みとった結果に基づいて、自分の考えを論理的に述べる力があるかどうか。

設問 3 設問 1 と設問 2 の回答を踏まえ、改善を提案する力があるかどうか。

【評価基準】

上記の出題意図を満たしていること。

【設問 1 の解答例】

「専門分野に関する知識・理解」については、「身についた」33%、「ある程度身についた」56%を合計すると、89%が身についたと回答している。「論理的に文章を書く力」については、「身についた」23%、「ある程度身についた」54%を合計すると、77%が身についたと回答している。「人に分かりやすく話す力」については、「身についた」22%、「ある程度身についた」53%を合計すると、75%が身についたと回答している。それに対し、「外国語を使う力」については、「身についていない」23%、「あまり身についていない」42%を合計すると、65%が身についていないと回答している。

【設問 2 の解答例】

「専門分野に関する知識・理解」は 9 割弱が身についたと回答していたことから、現状の大学教育は専門性の修得には大きく寄与していると考えらる。また「論理的に文章を書く力」と「人に分かりやすく話す力」は 4 人に 3 人程度が身につけていたと回答していたことから、専門分野ほど高くはないものの、論理的・批判的に思考する力や他者に自分の考えを伝達するコミュニケーション力の修得に寄与していると考えられる。それに対し、「外国語を使う力」は 3 人に 2 人程度は身につけていないと回答していたことから、大学教育においては、外国語能力の教育が後回しになっていると考えられる。

【設問 3 の解答例】

大学教育の改善には、まず外国語を使う能力の強化が必要と考える。学生が実際に外国語を使用する経験ができるような実践的な外国語修得科目を増やすことが必要ではないか。次に、文章力や話す力については、レポート課題を増やしたり、プレゼンテーションを重視した科目を増やしたりして、学生が自らの考えをまとめ、言語化し、他者に伝える経験を積む科目づくりが必要ではないか。そして、専門性と外国語、文章力、話す力を別々に修得するのではなく、専門分野の内容を外国語で発表するといった、相互に関連づけながら学ぶ科目を設定するような教育改善が必要ではないか。